

ワークショップ1

賑岡地区社協 ボランティア人材発掘大作戦！

グループ8

発表者 坂本 理恵
（所属：笛吹市社会福祉協議会）
アドバイザー 小野 敏明

作業1 「賑岡地区が抱える地域課題を確認する」

分類項目	地域課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域性 ・地域の特徴 ・地域力がある ・祭りの復活 ・人材不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・山林が地区の大半を占める。 ・公共交通機関が乏しい ・高齢化率が高くなっている。 ・少子化で、小学校が28年に統廃合 ・あんしんカードを住民主体で作成した。 (ストレングス＝強み) ・盆踊りが廃止になったが、住民有志によって復活した(ストレングス＝強み) ・次の世代へのつながりが希薄 ・行政、各関係機関、地区内の他の組織との横の連携が希薄 ・民生児童委員の負担が大きい。 ・行政の出先機関がない。 ・地区の役員が一年交代で、継続性がない
<p>取り上げる地域課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の賑岡地区には、地域力があるが、一部の人だけに限られており、次世代へのつながりが必要である。

作業2 「賑岡地区が抱える地域課題の解決を考える」

項 目	内 容	留 意 点
地区の状況	<p>(着目点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市には、自治会組織（区長連合会）がないので行政サービスに問題がある。 ・地区社協の組織は、しっかりしているが、住民が、地域づくりをする社協の会員という意識が薄い。 ・賑岡の一部の人は、(あんしんカード)を運用できる力があり、情熱を持っている。 	
地域課題を解決するために想定される活動(実践仮説)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協の中に青年団的なものを作れないか？ ・いきいきサロン等に、中学生を巻き込めないか？ ・地区社協の活動のPRをする。 ・お祭りを復活した有志の活動から、リーダーを育てるための仕掛けができないか？ ・地域福祉活動計画の賑岡版を作成できないか(目標を作り、子どもから、お年寄りまでの役割の明確化をする) 	
活用する地区の社会資源	<p>(着目点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップ作りのための座談会を行っている。 ・いきいきサロンの情報交換会をしている。 ・下畑倉の有志の会・育成会・消防団 ・小学校の跡地利用協議会(活動休止中) ・体育委員会が中心となり、小学校の跡地で、町民運動会を行っている。 ・お祭りが復活 	

目 標	<p>当面の目標</p> <p>下畑倉地区の祭り有志の会が中心となり、みんなのお祭りにしていくことで地域力と若い世代の意識を高める。</p> <p>将来の 展開目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 賑岡版の地域福祉活動計画を策定することで、自分たちでどんな地域にしていきたいか目標を持つ(消防団・育成会・中学生など) 	
-----	--	--

作業 2 - 2

項 目	内 容	関係専門職	留 意 点
予測される 担い手	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有志の会を起爆剤として、各世代をつないだ人 		
担い手への 問題共有の 方法・担い 手どうしの 関係形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りをきっかけとして、さまざまな人が話し合う「場」を作る。 		
各担い手の 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区社協は、有志の会に働きかける。 ・ 市社協は、地区社協をバックアップする(予算・地区担当職員) 		
	<p>① 地区社協が有志に働きかけ、情報交換会をする。</p> <p>② 消防団・育成会・中学生など様々な世</p>		

<p>課題解決活動づくりの 手順 (計 画)</p>	<p>代の人に声をかけ、住民座談会的な祭りを広めるための話し合いの場を持つ →問題の共有を地域課題を住民みんなで考える。 →地域の目標と役割の明確化 (子ども世代、高齢者世代、若者世代それぞれの世代) →優先順位をつける ★まとめ 賑岡地区地域福祉活動計画が策定できる。 地区の活動計画を大月市全域に広め、市の活動計画への発展させる。</p>		
------------------------------------	---	--	--